平成28年度

第2回 河南町地域公共交通検討会議

運行内容の見直し(案)

Ι.	見直しの方向性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
Ι.	南部循環バス見直し素案 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
Ш.	山手路線の見直し素案 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6

平成28年10月5日

河南町

I. 見直しの方向性

■路線別の改善点

「乗車時間の短縮」、「毎日運行」が多かった。

■乗降調査、利用者アンケート調査、住民意見交換会などによる結果を踏まえ、見直し(案)の方向性を以下に示す。

現状 課題 見直しの方向性 ■利用者が少ない南部循環 ◆利用者が少ない南部循環バ ■平成2年に比べて平成27年の高齢化率は約17%増加の29.58%。 バスB (白木地区ほか) の スB(白木地区ほか)の運行 路線再編 ルートの見直し ■役場周辺に公共施設が多く立地し、北部と南部にスーパーが立地している。 ■広域幹線道路の国道 309 号沿いに道の駅かなんが立地している。 ■所要時間及び運行距離を ◆所要時間(運行距離)の短縮 ■利用者は増加傾向にあるが、南部循環バスB(白木地区ほか)、南部循環バス(日曜 短縮するためのルート等 に向けた運行ルートの再編 便)の利用が少ない。 の見直し ■収支率(2月~8月)は微増傾向にあるが、8月で9.8%。利用者が少ない南部循環 バスB(白木地区ほか)の収支率が8月で2.3%、南部循環バス(日曜便)の収支 ◆利用者が少ないバス停を運行 率が8月で0.56%と低い。 ■利用者が少ないバス停、ル する区間を対象とした運行ル ート、ダイヤの見直し ートを短縮する等の見直し ■南部循環バスの日曜便の運行所要時間が長い(約66分)。 ■自動車利用できない人が ◆利用者が少ない時間帯を運行 ■路線別1日当たり利用者数(2月~8月)は、北部循環バスが44.8人/日、次いで 多い高齢者に対するモビ するダイヤの見直し 南部循環バスAが40.6人/日、南部循環バスBが10.2人/日、南部循環バス(日曜 リティの確保 便) が 7.8 人/日である。 ■路線別1便当たり利用者数(2月~8月)は、北部循環バスが3.7人/便、次いで南 部循環バスAが3.4人/便、南部循環バス(日曜便)が1.3人/便、南部循環バスB が 0.9 人/便である。 ■バス停別1日当たり乗車者数(2月~8月)は、北部循環バスでは「かなんぴあ」が 10.2 人/日と最も多く、次いで「万代前」が5.5 人/日、「東山(芸大・サンプラザ前)」 が3.7 人/日。南部循環バスAでは「かなんぴあ」が11.4 人/日と最も多く、次い で「河南町役場」が6.7人/日、「オークワ」が6.5人/日。南部循環バスBでは「か なんぴあ」が 2.5 人/日と最も多く、次いで「オークワ」が 2.1/日、「寛弘寺」が 1.2 人/日。 ■循環バスの利用促進 ■運行便別に見ると、概ね午前便が、午後便と比べて多い。 ■曜日別に見ると、火曜日から金曜日が多く、かなんぴあが閉館日の月曜日は少ない。 ■アンケートの回収率は34% ■収支率を改善 ■利用目的 「公共施設の利用(かなんぴあ、役場)」、「買い物」が多くを占める。 「自家用車が利用できないため」、「歩くには遠いため」、「循環バス・山手路線が維持 して欲しいから」が多かった。 ◆住民に循環バスを乗車しても ■利用頻度 らう利用促進の実施 「週2~4回」が多くを占める。 ■生活の変化 「生活が便利になった」が約9割を占める。 「外出回数が増えた」が約6割を占める。 「公共施設、スーパー等へ行きやすくなった」が約9割を占める。 「自家用車を利用する回数が減った」が約7割を占める。 ■持続可能な交通システム ■循環バス・山手路線の「満足度」 とするための財政負担の 「満足(やや満足を含む)」が約8割を占める。 あり方についての検討

対応策

運行ルートのなどの見直し

- 〇南部循環バスAと南部循環バスBの運行ルート統合
 - (交通空白地の解消→山手路線と同様の検討)
- ○利用者が少ないバス停(運行ルート)への乗り入れを
 - 休止
- ○公共施設や医療機関、道の駅かなんなどに行きやすく
 - する
- ○所要時間短縮のため「白木バイパス」の利用

利用促進策・収支の改善

- ○イベントに合わせた循環バス利用案内
- 〇医療機関や商業施設などのポスターによるPR
- ○スタンプラリーの実施
- ○地域住民によるバス停の清掃、花壇の設置など
- ○循環バス体験学習
- ○定期券、回数券の導入検討

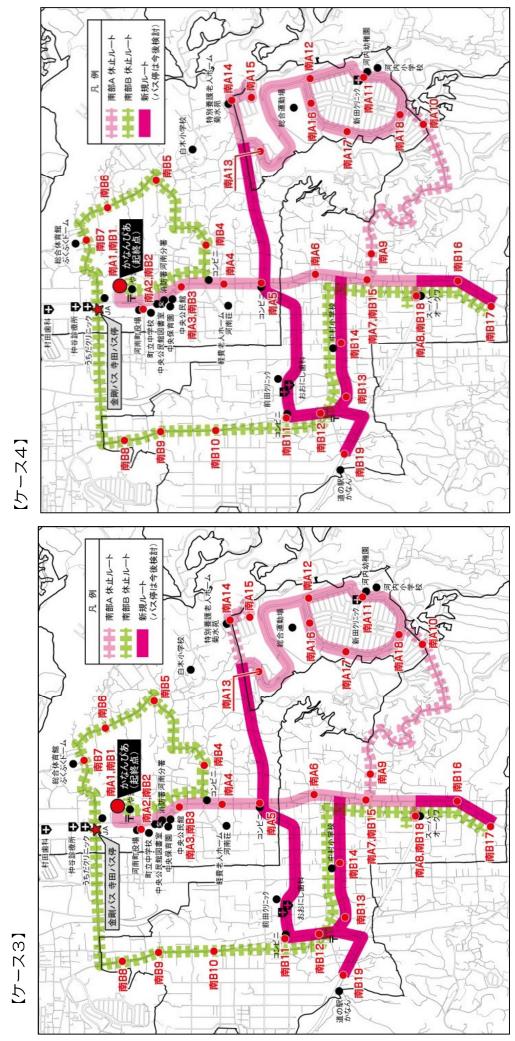
など

Ⅱ. 南部循環バス見直し素案

	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
概要	白木バイパスによる時間短縮 道の駅・医療機関に行きやすくする	白木バイパスによる時間短縮 道の駅・医療機関に行きやすくする 南部循環バスB、南部循環バスA(馬谷地区)は休止(山手路 線と同様の検討)	白木バイパスによる時間短縮 道の駅・金山古墳・医療機関に行きやすくする	白木バイパスによる時間短縮 道の駅・金山古墳・医療機関に行きやすくする 南部循環バスB、南部循環バスA(馬谷地区)は休止(山手路 線と同様の検討)
	 運行時間最短ルート 	 「鈴美台」経由ルート 	 【史跡金山古墳公園】経由ルート 	【鈴美台】+【史跡金山古墳公園】経由ルート
運行日	毎日運行	毎日運行	毎日運行	毎日運行
路線延長(km)	16.7	17.8	18.4	19.5
運行時間(分)*1	41	44	45	48
運行間隔	1便/1時間	1便/1時間	1便/1時間	1便/1時間
運行台数(台)	1	1	1	1
①運行費用(円/年)*2	12,330,000	12,360,000	12,380,000	12,410,000
②利用者数(人/年)*3	17,000	17,400	17,400	17,800
③運賃(円)	100	100	100	100
④運行収入(円)=②×③	1,700,000	1,740,000	1,740,000	1,780,000
収支率(%)=④÷①	13.8%	14.1%	14.1%	14.3%
メリット	・運行時間短縮が最も大(41分)	・白木バイパス利用で、「鈴美台1丁目」から「オークワ」の運行時間が現ルートより3分短縮	- 史跡金山古墳公園(南B17)に行きやすくなる	・白木バイパス利用で、「鈴美台1丁目」から「オークワ」の運行時間が現ルートより3分短縮
				・史跡金山古墳公園(南B17)に行きやすくなる
デメリット	・住宅集積地の「鈴美台1丁目」の住民が利用できなくなる(山 手路線と同様の検討)	・「鈴美台1丁目」まで運行することによって、「ケース1」より運行時間が3分長くなる	・史跡金山古墳公園(南B17)」まで運行することによって、「ケース1」より運行時間が4分長くなる	・「鈴美台1丁目」、史跡金山古墳公園(南B17)」まで運行する ことによって、「ケース1」より運行時間が7分長くなる
	・史跡金山古墳公園(南B17)に行けない(山手路線と同様の検 討)	・史跡金山古墳公園(南B17)に行けない(山手路線と同様の検討)	・住宅集積地の「鈴美台1丁目」の住民が利用できなくなる(山 手路線と同様の検討)	・交通事情などによって、運行時間が1時間を超える場合もあり うる
運行ルート	日本日本学校 日本学校 日		特別	日本

- * 1 : 実測値
- *2:運行委託費+車両リース料+燃料費
- *3:現状のバス停利用者数より予測

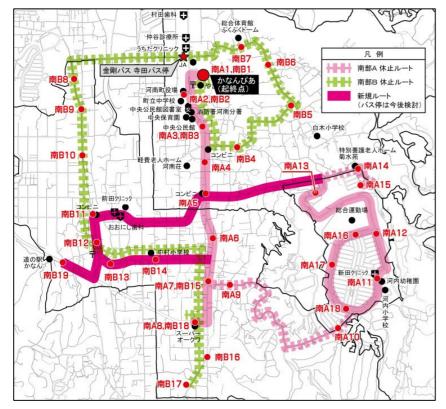
■運行ルート



5

Ⅲ. 山手路線の見直し素案(交通空白地の対応→山手路線再編による交通空白地の解消)

■南部循環バスの見直しによる交通空白地を解消するために山手路線と同様の検討を行う。



■山手路線の再編(当面)

■南部循環バスの見直しによる交通空白地を解消するために、利用者数の少ない山手路線の運行内容(便数)を見直す。

項目	山手路線A	山手路線B	交通空白地解消路線
運行ルート(現状路線)	かなんぴあ→平石→持尾→かなんぴあ	かなんぴあ→弘川→下河内→上河内→青崩→かなんぴあ	交通空白地
停留所 (現状)	停留所の設置間隔はおおよそ400mで、河南町が設置し管理する。	停留所の設置間隔はおおよそ400mで、河南町が設置し管理する。	停留所の設置間隔はおおよそ400mで、河南町が設置し管理する。
運行日(現状)	月・水・金曜日運行 ・年末年始(12月29日~1月3日)は運休	月・水・金曜日運行 ・年末年始(12月29日~1月3日)は運休	月・水・金曜日運行 ・年末年始(12月29日~1月3日)は運休
運行時間帯 (現状)	午前8時台から午後5時台	午前8時台から午後5時台	午前8時台から午後5時台
運行間隔 (見直し)	3時間に1本	3時間に1本	3時間に1本
便数 (見直し)	3便	3便	4便
運賃設定 (現状)	大人(中学生以上):200円/回 小人(小学生以下):100円/回・別途割引制度あり	大人(中学生以上):200円/回 小人(小学生以下):100円/回 ・別途割引制度あり	大人(中学生以上):200円/回 小人(小学生以下):100円/回・別途割引制度あり
車両(現状)	<常時運行に使用する車両> ・運行事業者が、車両1台を用意 ・定員4~5人乗りセダン型乗用車 <予備車両> ・運行事業者が、車両を用意 ・常時運行に使用する車両が、不具合等で使用できない時に 運行する ・運行車両が河南町の新たな地域公共交通であることが利用 者にわかるよう、車両に表示 ・系統を車両に表示	<常時運行に使用する車両> ・運行事業者が、車両1台を用意 ・定員4~5人乗りセダン型乗用車 <予備車両> ・運行事業者が、車両を用意 ・常時運行に使用する車両が、不具合等で使用できない時に 運行する ・運行車両が河南町の新たな地域公共交通であることが利用 者にわかるよう、車両に表示 ・系統を車両に表示	<常時運行に使用する車両> ・運行事業者が、車両1台を用意 ・定員4~5人乗りセダン型乗用車 <予備車両> ・運行事業者が、車両を用意 ・常時運行に使用する車両が、不具合等で使用できない時に 運行する ・運行車両が河南町の新たな地域公共交通であることが利用 者にわかるよう、車両に表示 ・系統を車両に表示



当面、現状の運行方法(定時定路線)で運行し、並行してデマンド運行のシステム構築の検討を行う